

報 告 書

報告日	平成	28	年	11	月	14	日	分 類					
所 属	企画部広報課							報告者	高野 優花	印			
日 付	開始	28	年	11	月	14	日	時 間	開始	10	時	00	分
	終了	28	年	11	月	14	日		終了	12	時	00	分
場 所	本店第2会議室												
件 名	女性農業者との「みらいろ女子会」交流サイト制作打合せについて												

件名について、下記の通りご報告させていただきます。

1. 出席者

<女性農業者>

景井愛美さん(仁井田、果樹農家)、齋藤蘭さん(鎌田、きゅうり農家)、橘内望さん(東湯野、果樹農家)
 鈴木千秋さん(鳥川、果樹農家)、阿部小織さん(渡利、花き農家)、鈴木千里さん(鎌田、きゅうり農家)
 須田めぐみさん(梁川町、果樹農家)

<業者>

(株)日進堂印刷所 村山一郎課長代理

(株)READBACK 片寄千恵子ウェブディレクター

<JA>

加藤光一企画部長、佐藤広司企画部次長、井浦弘晃広報課係長、高野優花、渡辺洋介

2. 内容

(1)あいさつ 加藤部長

従来より、女性のネットワークづくりへの要望があった。農業者だけのサイトではなく生産者も巻き込んで、農業の理解者を増やしてほしい。生産者に「安ければいい」ということではなく苦勞して生産していることを評価してもらえるようなサイトになると良い。

(2)協議 次第の通り

以下、意見交換等での内容をまとめました。

【女子会全体について】

- ・まったく農業に関わったことのない女性(外部)からの意見を女子会の中で共有することで、家に帰ってから主人にその内容を伝えてみたい。農業経営の刺激になると良いと思う。
- ・イベントの運営や集まりに子どもを連れて行くのは本当に大変なこと。会議以外でも女子会で活動するときは子供を預けられる場所を設けて欲しい。
- ・国や県で行う農業女子プロジェクトがあり、JAでも女子会があるとすべてに参加するのは大変。既存の組織と連携していくことはできないか？
- ・サイトを作って女子会を始めるのも良いが、「サイト製作」を女子会の活動の一つとすることもできるのでは？

【サイトについて】

- ・広く知って欲しいから告知を載せるので、サイトで発信したことは一般に公開する。または、発信者が、公開・非公開を選択できる。(非公開の場合もトップページ上で一部公開)
- ・会員全体の交流ページに加え、女性農業者のみの交流ページも欲しい。
- ・女性農業者ならではのレシピ、工芸、趣味を紹介できるコーナーをトップページに設けて欲しい。かつ、会員登録のメリットを出すため、その部分は一部公開にする。
- ・メルマガ機能が欲しい。(今後のイベント、農業女子のためのセミナー紹介など)
- ・会員同士の直接的なやりとり(ダイレクトメッセージ)のときだけ通知メールが欲しい。
- ・既存のSNSとの共有が出来るようにして欲しい
- ・個人のブログページが欲しい。ブログページは会員がお気に入り登録することで、マイページの中で表示される。
- ・女性農業者の情報ばかりだと一般の方が会員になりづらいので、会員のメリット性を出したい。(「農」より「食」にウエイトを置く?)
- ・次回の会議では一般の方にも参加して欲しい。女性農業者側も「サイトを作りたい」という意志を持つコアメンバーを募るべき。

※次回の会議は12月初旬を予定しています。

(3)懇親会

女子会の本格的な始まりの日ということで、出席者全員で食事会を行いました。

場所：アボカーレ(福島市北矢野目)

出席者：10人

費用：15,354円(税込)※教育情報費(17913101)より支出

3. 所感

みらいろ女子会の始まりにふさわしく、たくさんの意見・要望が出た有意義な会議になりました。一方、事務局だけで話していた内容では足りない部分や女性農業者が求めているものとずれている部分があることがわかり、サイト制作や今後の女子会運営について楽しみ半分、不安半分というのが正直な気持ちです。女性農業者に注目が集まっているからこそ、国や県でも同様の取り組みを実施し、素晴らしいサイトも作られています。その中で、「みらいろ女子会ならでは」の色やメリットを考えていくには、多くの方に協力を頂かななくては難しいと思いました。ですが、サイト制作の会議を設けることが女性農業者が集まる場を提供することにもつながっているということを実感しました。今日の懇親会では普段の生活から離れて、同じ年代の仲間と育児の話や農家の奥さんとしての悩みを語り合い楽しく会食している皆さんの姿が印象的でした。会議の目的はどんな内容であれ、「場」を作ることの重要性を感じました。

まず、JAとしてサイトの立ち上げを目標に活動を進めていきたいと思いますが、女子会自体の考え方やあり方についてはもう一度内部で話し合いたいと思いました。女性農業者の皆さんの「何か作りたい」「何かやりたい」という熱意をJAがサポートすることで形にしてあげられる一番いい方法であり、また、女性農業者や農業に関する理解者や応援者を増やせる良い媒体が「みらいろ女子会」になるようにしたいです。